

里ちゃんだより



里庄町教育委員会

電話 0865-64-7212

教育長あいさつ

里庄町教育委員会 教育長 杉本 秀樹

町民の皆様方には、教育行政の推進につきまして、何かと大変お世話になりまして心より感謝申し上げます。新型コロナウイルス感染症防止対策として、社会教育体育施設においては、使用人数の制限等にご協力いただき、誠にありがとうございます。また、各幼稚園、小学校、中学校においても、引き続き感染症対策として、学習指導の方法や行事等の内容変更を行い、教育活動を行っております。そのような中で、子どもたちは元気に過ごしています。これもひとえに学校園の取り組みに対しまして、家庭、地域の皆様のご理解とご協力のおかげであります。心より感謝申し上げます。

このような中、本町では、文部科学省の主導で推進している、小・中学校の児童・生徒1人1台の学習者用コンピューター等の端末と、高速大容量の通信ネットワークを整備する「GIGAスクール構想」について、計画的に準備を進めております。令和2年度中に整備を完了し、令和3年度から本格使用開始を予定しております。

今後とも皆様のご理解とご協力を仰ぎながら、学校教育・生涯学習のさらなる推進を図ってまいりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

GIGAスクール構想の推進について

～文部科学大臣メッセージより抜粋 一部要約～

Society (ソサイエティ) 5.0 時代に生きる子どもたちにとって、パソコン端末は鉛筆やノートと並ぶ必要不可欠な教具です。今や、仕事でも家庭でも、社会のあらゆる場所で ICT (情報通信技術) の活用が日常のものとなっています。社会を生き抜く力を育み、子どもたちの可能性を広げる場所である学校が、時代に取り残され、世界からも遅れたままではいられません。

1人1台端末環境は、もはや令和の時代における学校の「スタンダード」であり、特別なことではありません。これまでの我が国150年に及ぶ教育実践の蓄積の上に、最先端のICT教育を取り入れ、これまでの実践とICTとの融合を図っていくことにより、これからの中学校教育は劇的に変わります。

この新たな教育の技術革新は、多様な子供たちを誰一人取り残すことのない公正に個別最適化された学びや創造性を育む学びにも寄与するものであり、特別な支援が必要な子どもたちの可能性も大きく広げるものです。忘れてはならないことは、ICT環境の整備は手段であり目的ではないということです。子供たちが変化を前向きに受け止め、豊かな創造性を備え、持続可能な社会の創り手として、予測不可能な未来社会を自立的に生き、社会の形成に参画するための資質・能力を一層確実に育成していくことが必要です。その際、子どもたちがICTを適切・安全に使いこなすことができるようネットリテラシーなどの情報活用能力を育成していくことも重要です。

里庄「生きる力」向上プロジェクト さとしょう未来塾

今年も「さとしょう未来塾」が始まりました。新型コロナウイルス感染症拡大をうけ、里ちゃん寺子屋の開校式を2ヶ月遅れの7月4日に行いました。

「さとしょう未来塾」は、里庄の子どもたちに、「生きる力」を育む事業です。対象は、原則、小学校4年生から中学校3年生としています。

「さとしょう未来塾」には、2つの事業があります。1つは、里ちゃん寺子屋です。学校が休みの土曜日に子どもの居場所づくりとして、自学自習する場を提供し、学習習慣をつけることで学力の向上及び「生きる力」の育成に努めています。子どもたちは、宿題や課題を持って来て学習します。その中で、お互いに教え合ったり、町内ボランティアの方が支援してくださったりします。子ども相互の交流や地域の方々の参画によって、地域で子育てをするという気運が育まれています。昨年度からは、中学校の定期考查期間中に合わせ、放課後の学習の場を提供し、好評を得ています。

もう1つは、里ちゃんチャレンジ・ワールド 体験活動です。今年は、コロナ禍の影響で、活動が限られていますが町民の方々や企業のご支援をいただき、活動できています。学区や学年を越えて、一緒に活動し協力して成し遂げる喜びを味わったり、新しい発見に触れたりして、心を揺さぶれる経験をしています。

あわせて、ふるさとを再発見しその素晴らしさに気づき、愛しく思う心も培っています。事業により親子で参加し、絆を深めています。

(文責：教育コーディネーター 蜂谷 真治)



「里ちゃん 寺子屋」



里ちゃんチャレンジ・ワールド「囲碁教室」



里ちゃんチャレンジ・ワールド「福祉体験」講座



里ちゃんチャレンジ・ワールド「大原焼に挑戦」

裏面に続く

GIGAスクール構想推進で育む情報活用能力とは

情報活用能力とは、世の中の様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりするために必要な資質・能力です。具体的には、必要な情報を主体的に収集・判断・処理・編集・創造・表現し、発信・伝達できる力を付けていくことです。また、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着とともに、知識・技能を活用して行う言語活動の基盤となるものであり、「生きる力」に資するものです。

新学習指導要領の改定と1人1台のパソコン端末の導入に伴い、学校での学習のスタイルは変化をしていきます。本町でも情報活用能力を育むため、環境整備を進めるとともに、より良い指導方法の検討についても、各学校の教員と力を合わせて進めてまいります。

(文責：事務局長補佐 天野 正彦)

情報活用能力

コンピュータ等の情報手段を適切に用いて情報を得る。

情報を整理・比較する。

得られた情報をわかりやすく発信・伝達する。

必要に応じて保存・共有する。

基本的な操作

プログラミング的思考

情報モラル

情報セキュリティ

統計

参考：小学校学習指導要領総則編

異年齢の交流について

里庄西幼稚園・小学校長 柚木 康男

里庄西小学校では、本年度、春の運動会の代わりに10月にスポーツフェスティバルを行いました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、低学年（1、2年生）、中学年（3、4年生）、高学年（5、6年生）に分かれて行いました。かけっこ、リレー、玉入れ、綱引き、ドッジボールなどの種目に力いっぱい取り組み、お互いに応援をしました。当日は、お家の方の応援をいただき、より達成感や充実感を高めました。例年とは違う行事のやり方でしたが、異年齢の貴重な交流の場となりました。

また、児童会では、各学級で1枚の絵を協力して描き、校長室前に掲示して他の学年の絵を見合う取組を行いました。どの学級の絵も、それぞれにメッセージが込められており、児童は、賞賛の声をあげていました。

幼稚園では、異年齢と一緒に活動することで、相手を思いやる気持ちを育むようにしています。年少児は、年長児が遊んでいる様子を見て、憧れを抱いたり、新しい遊びやルールを覚えたりします。年長児は、自分たちが手本になることで自分の言動に自信をもったり、大きくなったことを実感したりします。そのためにも教師は、遊びの環境構成や援助の工夫に努めてまいります。

このように学校・園では、コロナ禍の中で、異年齢の交流に安全に配慮して取り組んでいます。今後とも様々な工夫をしながら、豊かな体験を通して、「里西っ子の生きる力を育てる」という学校・園目標の実現に努力してまいります。



スポーツフェスティバルの様子



学級で協力して描いた絵



異年齢で一緒に遊ぶ園児

コロナに負けるな 里見っ子

里庄東幼稚園・小学校長 松原 修



校内放送で感染症予防を呼びかける

昨年度末からの新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、学校園教育においても臨時休業をはじめ、行事の取りやめや縮小など、例年と異なった教育課程の推進を余儀なくされている中、子どもたちは感染症予防を踏まえ、工夫した取組を行っています。

小学校では、児童会が中心となって全校児童の意見をもとに、コロナ禍の下でも次のような工夫した活動を行いました。

4月の「1年生を迎える会」は校内放送を使ってお祝いメッセージを届けたり、○×クイズで楽しんだりしました。6月には「コロナに負けるな里見っ子大作戦」と称し、ポスター、標語づくりをはじめ、放送での呼びかけ、あいさつ運動など、各学級と各委員会とで役割を分担し、みんなの心と体を元気にする取組を行いました。10月には、11月に開催の「スポーツフェスティバル」を盛り上げて楽しくする工夫を話し合い、スローガン決め、飾り付け、応援メッセージ作成などに取り組み、会を盛り上げました。これらの児童会活動は、行事が減った中、少しでも学校生活を楽しく豊かなものにしようと、児童自らの発案で、知恵を絞って取り組んでいます。これからも児童の自主性の伸張を図っていきたいと思います

幼稚園では、9月に「親子なかよし運動会」を開催しました。天候不順のため小学校体育館を会場に、感染症対策を徹底しながら行いました。今年度初めての保育参観でもあり、親子共に笑顔あふれる楽しい時間となりました。



親子で楽しくジャンケンポン

中高連携（出前授業）

里庄中学校長 池田 敬治

多くの中学3年生にとって、初めての受験が迫っています。中学校入学後から、進路学習を行っていますが、やはり3年生になると、高校入試というものが身近に感じられ、生徒一人一人が、より真剣に進路決定に向き合うようになります。

例年であれば、春先から夏休みにかけて、各高校で開催されるオープンスクールに出かけ、進路決定の重要な材料の一つとします。しかしながら、今年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、オープンスクールの中止が相次ぎました。生徒自身が、実際に見て、聞いて、体験するという機会が失われてしまいました。そこで、里庄中学校で例年9月に行われている出前授業を7月に早めて実施しました。いつも出前授業で、お世話になっている笠岡高校、笠岡商業高校、笠岡工業高校の3校にも時期変更に快く応じていただき、生徒にとって進路決定の大きな一助となつたと思います。高校の先生による理科の実験や英語の授業、初めて体験するマーケティングや情報処理の授業、溶接、測量など、どれも魅力的な授業で、どの生徒も意欲的に熱心に取り組むことができました。今後も中高連携、また、小中連携を継続しながら、切れ目のない教育を大切にしていきたいと思います。



溶接体験の様子



情報処理の授業の様子